



週報

Rotary
OITA JOSAI, 2720



会長 衛藤祐介
幹事 中山省悟

国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー
第 2720 地区ガバナー
膳所 和彦
大分第 4G ガバナー補佐
吉良 昌一



世界で希望を生み出す

大分城西ロータリークラブ

クラブ スローガン「委員会の活性化」

地区スローガン

ロータリーは学び舎であり、また遊び場である
そして今、ロータリーアクションは世界を変える。

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

出席 報告	9 月 27 日					9 月 6 日				
	会員総数	出席者数	出席率	ゲスト	ビジター	会員総数	出席者数	補欠数	修正出席率	
	32 名	26 名	81.25%	2 名	3 名	32 名	26 名	2 名	87.5%	

編集
担当

10 月 眞上 晋
11 月 松田尚美
12 月 村上智貴

例会日 水曜日 12:30~13:30 事務局 〒870-0021 大分市府内町トキハ会館 4 階 E メール
例会場 ホテル日航大分オアシスタワー TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386 ホームページ

oitaJosaiRC@mist.ocn.ne.jp
http://oitaJosaiRotaryClub.com

2023-2024

第 10 回例会

地域社会の
経済発展月間

10 月 4 日

No.1536

◆本日のプログラム

12:30	点鐘
	国歌斉唱 「君が代」 ロータリーソング「奉仕の理想」
	ゲスト・ビジターの紹介 衛藤祐介 会長
	会長の時間 衛藤祐介 会長
	出席報告及び幹事報告 中山省悟 幹事
	ロータリー情報 R 情報担当委員
	委員会報告 各 委 員 会
	スマイルボックス 親 睦 担 当
13:00	アマルジャルガル アナーさん(米山奨学生)
	「私のことをもっとよく知りましょう」

◆今週のお祝い

●在籍記念日

松田尚美会員 10 月 2 日(10 年)

●創立記念日

奈須敬司会員

(株)AICホールディングス

H15 年 10 月 8 日(20 年)

●結婚記念日

芳崎一郎会員 H1 年 10 月 8 日

佐藤俊治会員 S50 年 10 月 10 日

●配偶者誕生日

岩尾隆志会員 瑞枝夫人 10 月 4 日

●会員誕生日

安東哲也会員 10 月 12 日

◆幹事報告

・国際ロータリー第 2720 地区のガバナーノミニー・デジグネート(2026-2027 年度ガバナー)決定の報告。人吉ロータリークラブ 延岡研一(のべおかけんいち)氏。通達は例会中に回覧済み。

・地区より、2024~2025 年度地区委員推薦のお願い。立候補希望者は、会長、副会長に申し出ください。

◆ゲスト・ビジターの紹介(9 月 27 日)

●ゲスト

竹内 孝夫様

(地区国際奉仕部門部門長)

小野 健介様

(地区国際奉仕委員会委員長)

羽田野 徹様

(地区国際奉仕委員会副委員長)

今長 学様

(地区国際奉仕委員会委員)

アマルジャルガル アナーさん

(米山奨学生)

◆今後の例会予定

●10 月 11 日 定款第 7 条第 1 節に基づき例会取り止め

●10 月 18 日 鷲野 祐子様

(株式会社うえ代表取締役社長)

●10 月 25 日 会員増強親睦夜例会

●11 月 1 日 定款第 7 条第 1 節に基づき例会取り止め

●11 月 8 日 地区補助金プロジェクトについて

●11 月 12 日 野外家族例会

第 1 回大分城西 RC 自給自足大会

●職業奉仕 3 分スピーチ

本日はありません。

(10/18)河野会員、(11/8)岩田会員

スマイルボックス

竹内孝夫会員(地区国際奉仕部門長) 1 口

本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今後も国際奉仕の活動、お願い致します。

小野健介会員(地区国際奉仕委員会委員長) 1 口

大分城西クラブの皆様、こんにちは！大変お久しぶりで、本日は国際奉仕部門の出前セミナーに竹内部門長のお手伝いさんでお邪魔しております。大好きな方々がいらっしやるので、とても楽しみです！何卒よろしくお願い致します！

衛藤祐介会員 2 口

本日は 72 歳の誕生日ですので、2 口スマイルします。72 口ではありません。

石橋春明会員 1 口

本日は竹内国際奉仕部門長をはじめ多くの委員の方にお越し頂きありがとうございます。私も国際奉仕委員ですがまだまだ未熟者ですので、今日も勉強をさせて頂きます。本日はどうぞ宜しくお願いします。

委員会報告 佐藤憲幸社会奉仕委員長

秋の収穫祭(稲刈り&あんこ餅・きな粉餅づくり)
日時:2023 年 10 月 22 日(日) 9 時 30 分集合
場所:由布市挾間町時松 時松集会所
スケジュール: 9:30 集合
10:00 稲刈り
11:00 あんこ餅・きな粉餅づくり
昼食・交流会
13:30 終了・解散
☆参加者には新米進呈

会長の時間(9 月 27 日) 会長 衛藤 祐介

今日は私の誕生日です。72 歳になりました。老害にならないためには、そろそろロータリーも引き際が近づいてきたかと思っています。人類が進化を続ける限り、若い人は老人より優秀だということは間違いありません。先日医者をしていた同級生が亡くなりました。あまり深い付き合いはなかったのですが、これからは周りの同級生が亡くなっていく時期に来たと、しみじみと思わされます。本日は何故日本人がマスクを外せないかという考察が出していたので紹介させてください。

へびに睨まれたカエルのように後手に回ろうとする日本人

「へびに睨まれたカエル」という言葉があります。要するに、カエルを今にも捕食しようとするへびを前にしてカエルが硬直してしまう状態を言っています。これによって「恐ろしい人を前にして体がすくんでしまう状態」の慣用句となっています。



さて、カエルは本当にへびが怖くて身動きが取れないのか？このとき、逃避という合理的な行動をとらないのはなぜ

か。実は、カエルが静止しているのは、一種の「戦術」であることが 2020 年の研究で明らかになりました。

カエルが先に逃避行動を起こしてジャンプすると、放物線上を移動し、跳躍後の進路変更は不可能です。へびに軌道を読まれて捕食されてしまいます。へびの行動も同じく、カエルに噛みつこうとして体を伸ばして、目標物のカエルにさわられた場合、いったん体を曲げてからでないと方向を変えられません。この体勢立て直しに 0.4 秒かかるため、カエルに逃げられてしまいます。したがって、へびもカエルもそれぞれが相手に対して後手に回る機会をうかがって、身じろぎせずにいるということです。フランスの哲学者 ジャック・ラカン、このような状況の相互依存的関係を「間主観性」と呼びました。

全ての人に当てはまることではありませんが、新型コロナウィルスという「未知の目に見えない敵」に対する人々の不安がある社会では、「感染防止に協力している」という「記号」の一つであるマスクを着用するか、マスクをしていない人を迫害することによって(自粛警察)自分を「安全圏内」に位置付けます。この段階では、ひとびとは先手必勝の論理に基づいて行動します。

マスク着用が常態化して 3 年。今度は公的にマスク着脱が個人の判断にゆだねられると、人々は率先してマスクをはずすことをためらっています。街頭インタビューを観ても、「みんなが外せば私も外します」という意見が聞かれます。へびとカエルのにらみ合いのように、誰もが後手にまわろうとしているようです。

日本のような「ムラ社会」では、「個人の主体的な選択」、「個人の判断」はむずかしいところがあります。いったん常態化したものは、一種の不文律としてムラの構成員を呪縛します。そこから離脱するためには、もういちど集団の論理を経由しなければなりません。そのとき、ムラの構成員の行動は、反対の順序をたどり、「後手」を選択するのです。

若い女性は、「マスクをはずすことに抵抗がある」と言います。理由は、「恥ずかしい」「自分の顔に自信がない」「友達にどう思われるか不安」などです。若者たちは、自分たちの「ありのまま」が恥ずかしかったのであれば、コロナ禍以前からすでにマスクを着用していたはずですが、事態はまったく逆です。他人に晒す顔に対する、「マスク」という公認の「修正アプリ」の適用の効果を知ったときはじめて、それ以前の顔を「恥ずかしい」と思う過剰な自意識が〈事後的に〉めばえたのです。あたかも、化粧を知った女性が、それ以降はすっぴんでは人前に出られなくなるように。あるいは、裸族が、西洋文明の移入によって下着を着用した時点から裸を露出することに抵抗を感じてしまうように。



マスクは、新型コロナウィルスという未知の不可視の敵、いわば〈ケガレ〉あるいは〈呪い〉から身を守る〈護符〉でした。しかし、いまや、その〈護符〉そのものが〈呪物〉となり〈呪い〉としてわたしたちを強迫観念的に拘束しているのです。その〈呪い〉をわが身からひきはがそうとすれば、「醜さ」の露出、あるいは他者の好奇な眼差しの被曝という〈罰〉を、いやおうなしにこうむることになるのです。

以上のような考察でした。異論もあるでしょうが、日本人一人ひとりが「ムラ社会」から抜け出す「勇気」が必要なことは理解できます。

眼瞼下垂の手術について

眼瞼下垂の手術は眼科でも行いますがあまり積極的に勧めません。真ん中ぐらいまで下がった人を見えないからしかたなく行う程度で、視機能目的です。顎を上げて見るから肩が凝ったり後頭部痛がある人や、眉毛を上げて額に皺がすごく増えている人も適応です。

眼科医だけでなく美容外科と皮膚科の形成外科も眼瞼下垂の手術をしますが、整容的な目的が多いです。最近街中に増えた美容外科が自由診療で安く行うCMをしているのを心配しています。あまり知られていないようですが、自由診療で起きたトラブルは保険診療できないので10割負担で診ることになります。どのような手術をされたか紹介状でもない限り、手術した先生にちゃんとフォローしてもらってくださいと言われます。美容外科の治療のやり直しを他の美容外科で行うにはかなりの高額請求されます。

眼科医が積極的でない理由として、上げすぎると目が乾くとか将来の瘢痕化が心配な他に、アレルギーや全身のむくみで腫れていたり神経の問題など別の理由で瞼が下がってがっているのを診断してその治療で解決するからです。また、手術するとしても短くしたものは伸ばせないのと、傷の固まり具合が人によって差があるので、やりすぎないように心がけています。

ハードコンタクトレンズを長く使って筋肉が伸びた人には瞼の裏側から糸だけで吊り上げる方法で行います。筋肉は動くけど瞼の皮膚が余ってオーバーハングしている患者には、皮膚だけ切って縫い縮めることをします。二重瞼のラインをなるべく利用すると目立たないのですが、皮膚の厚さが違うと都合が悪くなるので、眉毛のすぐ下を切ることが増えています。そこに痕がどうしても残るのを減らすため、この場合は金属のメスでなくて炭酸ガスレーザーを使う皮膚科で行うのがいいと思います。

いずれにしても皆さんと周囲の方々が知識を持って、後悔しない選択ができるように願います。

卓話の時間 国際奉仕部門 部門長 竹内 孝夫 様

国際ロータリー第2720地区

2023~2024年度

国際奉仕部門 方針

国際奉仕部門 部門長
竹内 孝夫

テーマ『新たな国際奉仕の絆』

・2023~2024年度

部門構成員

部門長	竹内孝夫 (別府東)	委員	林田信治 (熊本西南)
副部門長	泉 知宏 (熊本東)	委員	高嶋圭一郎 (日田)
委員長	小野健介 (臼杵)	委員	石橋春明 (大分城西)
副委員長	羽田野徹 (別府東)	委員	今永 学 (2720JapanO.K.REC)
		委員	松本宗三 (大分中央)

国際ロータリー2023-2024年度会長
ゴードン R マッキナリー

テーマ 世界に希望を生み出そう

「私達の目標は、破壊的な紛争・災害・感染症から世界が立ち直れるように、**希望**を取り戻すことです。そうすれば私たち自身のために持続可能な変化をもたらすことが可能となります」

「ビジョン声明」実現のための二つの要素

・ 平和の推進

戦争・紛争・貧困・自然災害などで苦しむ人々を癒し、世界に平和をもたらす。タイで津波の被害を受けた女性からもらった美しい貝殻の思い出

・ メンタルヘルスへの取り組み

新型コロナウイルス流行により社会が分断され、多くの人々がストレスを抱えている。ロータリーは会員と奉仕を受ける人の両方のメンタルヘルスを支えるような組織となる。

膳所年度地区スローガン

Rotary is a school, and also a playground.

(ロータリーは学び舎であり、また遊び場である) ⇒ [ロータリーの原点](#)

Now, rotary action can change the world.

(そして今、ロータリーアクションは世界を変える) ⇒ [ロータリーの変革](#)

膳所年度地区活動重点項目

- ・ ロータリーの原点回復と未来変革
- ・ 地区とクラブの関係をより密接な「エンゲージメント」とする
- ・ 地区戦略計画の実践：【若者と親しみ、ロータリーを繋ぐ】
- ・ ポリオ根絶運動のビッグキャンペーンを実施
- ・ パートナースhipとの共同奉仕活動
- ・ 地区の数字目標達成

2023-2024年度 国際ロータリー
第2720地区 国際奉仕部門 方針

- ① 出前セミナーの実施、地区内で国際交流希望クラブとのマッチングサポートを実施
- ② ロータリー財団部門、米山奨学部門とタイアップしてグローバル補助金・地区補助金や米山学友等の関わり合いを通じて、より豊かな国際交流をバックアップして行く事
- ③ ポリオ根絶運動のビッグキャンペーンの実施
- ④ ウクライナ問題を含めて国際奉仕部門として、支援等検討
- ⑤ 県内在住海外の方への新たなサポート検討する

①地区内で国際交流希望クラブとのマッチングサポートを実施

- ・国際交流についてのアンケートを実施（2022.09実施）

A) 現在国際交流を実施していますか

- ・実施している（リアル）（熊本6クラブ）（大分9クラブ）
- ・実施している（オンライン）（熊本3クラブ）（大分2クラブ）
- ・実施していない（熊本24クラブ）（大分19クラブ）

B) 実施しているクラブはどの国と交流していますか？

- ・台湾、韓国、タイ、オーストラリア、ベトナム、ケニア、カンボジア等

C) 実施していないクラブでどの国と交流を希望しますか？

- ・台湾、韓国、モンゴル、フィリピン、スリランカ、ウクライナ、カナダ等

交流しているクラブに於いて姉妹クラブ友好クラブの関係もありますが、部分的な交流も見られます。2720地区に於いては重点国・エリアを台湾3523地区との交流強化を進めています。

②ロータリー財団部門、米山奨学部門とタイアップしてグローバル補助金・地区補助金や米山学友等の関わり合いを通じて、より豊かな国際交流をバックアップして行く事

- ・ロータリー財団・・・寄付を受け取り、ロータリークラブや地区の人道約および教育的活動で、ロータリー財団が承認したものに補助金を提供する非営利法人と定義されている。またロータリー財団の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を解消することを通して、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることである。

・補助金の種類

- ・地区補助金・・・資金が一括して支払われ、クラブや地区が地元や海外の差し迫ったニーズに取り組みために利用できます。
- ・グローバル補助金・・・プロジェクト総額30,000ドル～400,000ドルの範囲で、7つの重点分野に関連し、長期的に大きな成果をもたらす活動を支援します。

米山記念奨学会・・・公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、勉学・研究のために日本に在留している私費外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンからの寄付金を財源に奨学金を支給し支援する、民間の奨学財団です。

国際奉仕部門としてはロータリー財団の補助金である地区補助金・グローバル補助金を有効活用し国際奉仕に繋げたい。また、米山学友との関わり合いを深め国際交流に繋げたいと思います。

③ポリオ撲滅運動のビッグキャンペーンの実施

- ・ポリオ撲滅運動・・・1985年にポリオプラス・プログラムを開始して以来1988年には、125か国で35万件以上の発症が確認されていたが、以来、25億人以上の子供にポリオの予防接種を行い、発症数は99.9%減少しています。ただし、完全撲滅しない限り今後10年間に新たな発症数が世界で20万件を上回るを推測されています。

ポリオ根絶運動のビッグキャンペーンを実施

- ・ポリオデイ（10月28日）に大規模なキャンペーン活動を実施
- ・九州4地区合同での一斉ポリオ根絶運動を計画する
- ・ロータリーカードの推進

- ・国際奉仕部門として、地区財団部門・公共イメージ部門・青少年奉仕部門の連携を取りポリオ撲滅運動のビッグキャンペーンを実施できればと思います。

④ウクライナ問題を含めて国際奉仕部門として、支援等検討

《現状のロータリーとしてのウクライナへの対応》

・ロータリー財団は2022年7月末までに1,500万ドル以上の寄付を集め、日本からは約334万ドル（DDF（地区財団活動資金）寄贈含む）もの寄付がありました。それによりウクライナの人々に、水、食料、シェルター、医薬品、医療等の生活必需品を提供するための支援を行っています。ちなみに当地区に戦火を逃れて来られたウクライナの避難民は、熊本県が2人、大分県が27人との事で両県の行政機関が支援を行っています。これがいつまで続くかは未定との事で、援助金もいつまで実施するか分からない状況であるようです。

国際奉仕として、ウクライナだけでなくトルコ大地震等の世界的災害等にロータリーとしてまた国際奉仕部門として小さな一歩ではありますが出来ることをもう一度検討していければと思います。（※ハワイ マウイ島の大火災等）

⑤県内在住海外の方への新たなサポート検討する

- ・今回のコロナ禍の中で国際奉仕部門としては海外との交流をほぼ3年間でできない状況でした。現在少しずつwithコロナの観点から国際交流も始まりました。ただ、コロナは今現在も蔓延を続けており、また世界ではウクライナ等の惨劇は続いております。国際奉仕部門としては国際交流という概念を拡大解釈し県内（大分・熊本）に在住している海外の方々とロータリー国際奉仕部門として何らかの関わり合いを持つことと支援できることを検討して行く事を進めたいと思います。

最後に・・・

- ・3年間のコロナ禍において国際奉仕部門としての活動は殆ど出来ない状態でした。WITHコロナの現在、活動を再開出来ればと思っています。大きな方向性としては
 - 一、国際交流の出前セミナー実施及び海外クラブとの交流希望クラブとのマッチングサポート
 - 一、他部門との連携による国際交流及びポリオ撲滅運動の実施
 - 一、国際奉仕部門として新たな方向性の検討（ウクライナ問題・県内在住者サポート等）
- 国際交流は個人でやることは難しいことですがロータリーとしては実現可能です！
成功の反対は失敗ではなく何もしないことです。皆さん積極的に国際奉仕しましょう！

臨時理事会議事録（9月27日）

1. 野外例会について

環境保全担当リーダーの奈須会員から11月12日に行われる野外例会（自給自足大会）の説明を受けた。

10月4日の例会で奈須リーダーが全会員に趣旨説明を行い参加を募る。10月18日の例会で最終の出欠確認を行い材料手配の準備にかかることとする。